

●日本WHO協会フォーラム『ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ってなあに？』開催報告

2018年の世界保健デーのテーマは、Universal health coverage: everyone, everywhere「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：誰もがどこでも保健医療を受けられる社会」、スローガンはHealth for All「すべての人に健康を」です。全ての人が生涯を通じて必要な時に基礎的な保健医療サービスを負担可能な費用で受けられるというUHCは、WHOの創立理念としてWHO憲章前文に掲げられる項目の一つ「人種、宗教、政治信条や経済的・社会的条件によって差別されることなく、最高水準の健康に恵まれることは、あらゆる人々にとっての基本的人権のひとつです」にかかわるものであることが、WHOのリリースでも謳われています。UHCに関しては、2016年のG7伊勢志摩サミットやUHC東京宣言を採択したUHCフォーラム2017など、我が国も国際的議論に主導的に取り組んできているものです。日本WHO協会が2018年8月5日に開催したフォーラムの講演録を以下に掲載します。

フォーラム『ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)ってなあに？』開会挨拶

日本WHO協会理事長 中村安秀

本日は暑い中を多くの方々にお集まりいただき、誠にありがとうございます。私は日本WHO協会の理事長を2018年6月からは拝命いたしました中村です。本日もご出席いただいている關淳一先生が8年間にわたり素晴らしい活動をされ、日本WHO協会を再生し素晴らしい協会にされたところです。私は、關先生が進めてきたこれまでの活動を引き継ぎながら、新しいチャレンジをしていきたいと思っております。

本日は皆さんにいろいろな資料を配らせていただきました。その中で公益社団法人日本WHO協会「WHO ASSOCIATION OF JAPAN」が当協会の活動をまとめた資料です。日本WHO協会はWHO（世界保健機関）の憲章の精神の通り、世界の人々の健康の増進に寄与することを目的に設立されました。

WHOのいろいろな活動をホームページ（HP）でご紹介するとともに、「目で見るWHO」という冊子を作成・配布しています。またHPにも載っていますが、日本の若い人たちがジュネーブをはじめ世界中のWHO事務局でインターンとして働く際の、金銭的なサポートをしています。さらにjaih-s（日本国際保健医療学会学

生部会）との共催企画など、いろいろなフォーラムの開催なども行っております。

すでに会員および賛助会員になっている方もいらっしゃると思いますが、会員、賛助会員は鋭意募集しておりますので、ぜひいろんな形で入会していただき、当協会の活動に対しご理解とご協力をお願いしたいと思います。皆さんの方からこんな活動をした方がよいというご意見、こんな講演をしてほしいといった要望などがありましたら、ぜひ事務局までお寄せいただきたいと思います。

もう一つ、手前味噌ですが、私は『地域保健の原点を探る－戦後日本の事例から学ぶプライマリヘルスケア』（杏林書院）というプライマリヘルスケアに関する本を最近出しました。本日のUHCとも密接に関連するテーマですので、何か機会にご感想やご批判をお寄せいただくと幸いです。

日本WHO協会では今後も講演やセミナー、勉強会など、いろんな形で皆さん方との接点を持ちながら、日本の中の健康やWHOについて考えていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。